

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201627		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム花丘		
所在地	高崎市南大類町1307-6		
自己評価作成日	平成24年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成24年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

快食・快眠をもっとうに一人一人が自由に自分らしく暮らせるようにスタッフ一同、同じ方向をむいての支援を考えております。皆様が元気に毎日安心して暮らせるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、日頃ケアを通して、あるいは年に一度アンケート調査を実施し、入居者一人ひとりの希望や意向の把握に努めるとともに、家族に対しては、来所時や毎月ホームの状況や個々の入居者の日常の様子を便りで伝えながら、意見や要望等を聞くように努めるなど、入居者や家族とのコミュニケーションを大切にし、支援に繋げている。日々暮らす上で最も大切なこととして食事摂取に重点を置き、食事担当専門の職員を配置し、食材の彩りの工夫や栄養バランスのとれた献立作成に心掛け、利用者の食欲を増し食事が楽しみになるよう配慮している。また、毎食事に新鮮な野菜などによる手作りの青汁を提供し、排便のコントロールに効果をあげる等、入居者が健康で生活を継続できるよう支援している。毎月の職員会議には、代表者をはじめ職員全員が出席し、ケア内容等について話し合わせ、確認され、ケア等の方針の統一化が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り終了後に皆で唱和して確認し実践するよう心掛けています。	開設当初より、地域とのふれあいを理念の4本柱の一つに掲げている。朝礼時に皆で唱和し、毎月の職員会議には、代表者をはじめ全職員が出席し、話し合い、常に理念を念頭にした統一的なケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事や日常的に近所の方への声かけ、協力をお願い、広報、回覧板、中学生たちの課外授業への協力などを行っています。	自治会に加入し、回覧板等により地域の情報を得ながら自然体で地域とお付き合いをするようにしている。事業所の花火大会等の行事に地域の人達に呼びかけ、共に楽しんだり、地域の小学校のコンサートに招待を受け参加したり、中学校の生徒を体験学習の場として受け入れるなど、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議における内容を議事録として各ご家庭へお知らせしおり、「ここで見てもらって良かった」という声も頂いています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、利用者・家族会会長・市職員・民生委員等の出席を頂き、メンバーが出席し易いように土日を充て開催している。会議は、利用者の状況や行事報告等を行い意見交換している。提案を受け、災害時等の緊急時に備え、家族会メンバーの連絡網を作成するなど、運営に反映させている。	事業所の報告や情報交換に留まらず、サービスの向上に具体的に活かせるよう、事業所の課題等からのテーマの検討やテーマからの出席者の人選等の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	インフルエンザの流行やO-157の発生状況、研修などの情報を頂いています。	市の担当者とは、更新申請時等の訪問時や電話等により、その都度、報告や運営上の疑問点等の相談を行っている。また、市から認知症について等の研修案内の情報を得て参加する等、市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	パンフレットを読んだり、研修にも出かけ情報を共有しています。1月末にも研修があります。	職員は、日頃のケアを通して、あるいは、研修会に参加し、参加後に職員同士で話し合うなどして、身体拘束をしないケアについて理解を深め、実践している。鍵をかけないケアについては、日中は見守りを重視し、利用者の表情や行動から把握するなどにより実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払っている	職員会議など折に触れ、話し合って確認しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに出かけ皆で情報を共有し、勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や推進会議・面会などで来所された時に説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の職員会議において、意見・要望などを提案し話合っています。	日頃ケアを通して、あるいは年に一度アンケート調査を実施し、入居者一人ひとりの希望や意向を把握し、反映に努めている。また、家族に対しては、来所時や電話、毎月ホームの状況や個々の入居者の日常の様子を便りや写真で伝えながら、意見や要望等を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において、意見・提案などを協議し、共有しております。	代表者、管理者は、職員会議や日々において、職員が意見や提案等を言い易いように配慮し、聞くよう努めている。また、勤務表作成時には職員の希望等を聞き、作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあらゆる研修を受けさせ、ケアの力量を向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会組織のネットワークの中で、相互訪問や勉強会に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当日までにご本人と話し、希望や疑問点などを聞き、より良いケアに努めるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	早目のアセスメントを取り、1日も早く不安などを取り除ける様に努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当日に、ご本人やご家族に直ぐに必要なとされるケアを見極めるよう努力しています。入所当日の様子を明記している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅においての習慣やできそうな仕事、興味のある物を見つけ出し協力しながら一緒に過ごせるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の近況や体調などを月1回のお便りとして 各ご家庭に発送しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所される方の制限はありません。またご家族と外食に出たり、墓参りに出かけたりする方も何人かいらっしゃいます。	近所の方や親戚の方が訪ねたり、役員が入居者の敬老の祝い品を持参し訪れたりしている。また、家族と相談し、家族と一緒に外食や墓参りをする等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く暮らせるよう、食事やテレビなどを見る場所(席)などを考え支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に2回程、転居先へ様子を伺いに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様にアンケート調査を行い、意向や希望を聞き支援に活かしています。意思表示が難しい人はご家族に聞いたりカンファレンスで話し合い把握に努めています。	食事や昼休みの時などに、一人ひとり個々に話かけるように心掛けるなど、日頃のケアのなかで思いや意向を把握するとともに、年に一度アンケート調査を実施し、把握に努めている。困難な場合は、家族から聞いたり、職員同士で話し合ったりして把握に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表をもとにご本人の生活歴や生活習慣を聞き、経過に応じたサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の申し送りや健康チェック表にて現状を把握し、ケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定例会議の時にカンファレンスを行い、皆の意見をもとにケアプランを作成しています。毎月モニタリングを行い状態に変化があった時には都度見直しを行っています。	入居時のアセスメントをもとに、3ヶ月毎にプランを見直している。利用者毎の日常の気づき等は、申し送りノートに記載し、毎月モニタリングを行い、身体状況の変化時などはその都度見直し、計画作成後は、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート等により情報を共有し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出希望のある入居者様には職員同行で散歩や買物等ができるよう支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いくつかの病院と提携しており、その時の症状に合わせ医療を受けられるよう支援をしています。	かかりつけ医は家族の意向の結果、協力医をかかりつけ医としている方が多い。協力医が月1回往診に来ている。家族による受診が困難な場合は、職員が対応し、受診結果は家族に知らせている。また、家族からも口頭で報告を受け、申し送りノートに記載し、情報を共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や受診を通じ不安な事などは看護師と連絡を取り支援しています。時には訪問看護も受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院へ様子をみに出かけたり、ケースワーカーに相談をしたりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には早い段階から家族等と話し合いを行い、医療機関にも相談をし支援に取り組んでいます。	重度化や終末期については、入居者の状態変化等に伴い、その都度、家族や主治医等と話し合い、訪問看護利用等を含め、協力体制を協議しながら事業所でできることを十分検討し、取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを提示すると共に、定期的に研修をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や近隣への協力もお願いしている。スプリンクラーや自動警報通報装置の設置も終了しています。	避難訓練は、年2回消防署立ち会いにより、内1回を夜間想定にて、近隣の方にも知らせて実施している。その他、職員会議後適宜自主訓練を行っている。スプリンクラーや自動警報通報装置も設置済みである。また、緊急時における、家族会メンバーの連絡網が整備されている。防災用品や飲料水、非常食などを備蓄している。	災害時における地域住民の協力については、具体的な役割がわかる体制づくりの検討を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に対し、その人に合った対応と言葉かけを心掛けています。	年長者としての言葉遣いに心がけ、丁寧な言葉かけを基本としている。トイレ誘導時等は、さりげない呼びかけとともに、戸をきちんと閉めるなど、人格やプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人なりの行動を見守り、声かけをして介助させて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の時間設定はしていますが、その方のペースに合わせて入浴・食事・外出など支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室の来所が2ヶ月に1回あります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さん食事が楽しみで、その方に合わせた形で食べて頂き、食器などの片付けも手伝って頂いています。	特に食事を重視し、食事担当専門の職員を配置し、彩りよく、季節感や、栄養バランスのとれた献立作成に留意し、一人ひとりに合わせた、刻み、ミキサー食を提供している。また、時には希望により外注の弁当を取り寄せたり、手作りの餅やまんじゅう作りを職員と共に楽しんだりしている。無理のない程度に片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当者が介護者とは別にあり、各利用者の状態等を十分に考慮し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び食後に舌や義歯・口腔内ケアをその人に合わせ行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に基づき、その人の排泄ペースに合わせ、声かけや誘導にて介助支援しています。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い、また、歩くのが大変な方には夜間はポータブルトイレを用意する等、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、青汁ミルクを作り対処しています。皆さんほぼ毎日快便です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の好きな方、拒む方色々ですが、ほぼ希望される日に入る事ができていると思います。基本的には午前中を予定しています。	1日3名、基本的には午前中を入浴時間に決めている。希望者には柔軟に対応している。入浴介助しながら一緒に歌を唄ったり、会話を楽しんだりしている。入浴剤や前庭のゆずを採ってきて入れたり、変化を持たせる工夫をしている。入浴拒否の場合は、順番の変更や翌日の入浴に変更をする等、一人ひとりに合わせ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居眠りの多い方には声かけをし、いつでも居室内にて休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の内容について主治医に相談や確認をし、服薬の支援や症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション・散歩・外出等、色々な形で支援できるように努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は個々の希望に沿ってできるよう支援に努めています。又、普段は行けないような場所をご家族に協力をお願いしています。	天気の良い日は、近隣への散歩や苑庭に出て季節のきんかん等の収穫を皆で楽しんでいる。季節毎に、バラ園やりんご狩り、初詣等に出掛けている。また、時折家族と共に外食や墓参りに出掛ける等、家族やボランティアの協力を得ながら、入居者が楽しんで外出できるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は預かっておりませんが、理解できる方には使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれた時はやり取りができるよう支援をしています。また携帯をお持ちの方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた毎月の手作りカレンダーや四季折々の花や果物などを飾り、季節感が出るようにしています。また季節ごとに行事も行っています。	共用の居間は明るく開放感があり、壁面には利用者の合作のカレンダーが掛けられ、外出行事の写真や利用者の作品等が飾られている。また、殺菌作用のある木酢を用いて掃除を行い、におい防止や清潔さを保ち、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・ホール・食堂どこでも自由に過ごせるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にご本人が使い慣れた物をお持ち頂くようお願いをしています。	各居室のドアには、表札や写真が飾られ分かり易いように工夫している。室内は馴染みの家具などが自由に配置され、ベッドは、一人ひとりに合わせ高さを調整し、また身体機能に合わせ床にマットを敷くなど、本人が過ごし易いように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きく見やすい文字で表示をしたり、安全に移動できるように家具の配置を考えるなど、環境づくりに気を付けています。		